

美術科

美術科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

(1) 効果的な学習の展開について

- 「知識及び技能」の習得, 「思考力, 判断力, 表現力等」の育成, 「学びに向かう力, 人間性等」の涵養を, 題材など内容や時間のまとまりを見通しながら, 主体的・対話的で深い学びの中で実現していきます。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」設定のポイント

- 学習の見通しや, 振り返りで自身の学びや変容を自覚できる場面の設定。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定。
- 生徒が考える場面と教師が教える場面の設定。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」のために

- 「見方・考え方」を, 習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせる。
- 造形的な見方・考え方を働かせ, 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させる。
- 自己との対話を深めたり, 表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったりする。
- お互いの見方や感じ方, 考えなどが交流され, 新しい見方に気付いたり, 価値を生み出したりする。

2 「造形的な見方・考え方」について

造形的な見方・考え方とは, 「感性や想像力を働かせ, 対象や事象を, 形や色彩, 材料や光などの造形的な視点で捉え, 自分としての意味や価値をつくりだすこと」です。

造形的な見方・考え方

美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方


感性や想像力を働かせる。

対象や事象を**造形的な視点**で捉える。

自分としての意味や価値をつくりだす。

造形的な視点は, 具体的には「形や色彩」「材料や光などの造形的な要素」など〔共通事項〕(ア)と関連しており, 学習活動によって様々な内容が考えられる。

働かせる → 美術科の本質にせまる学習



授業や生活, 社会の中で働く力になるよう, 学年ごとに積み重ねて鍛えていく

3 「美術的活動」について

- 感性や想像力を働かせて, 表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるような学習活動。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き, 美術文化についての理解を深めることができるような学習活動。
- 「A表現」及び「B鑑賞」の学習に必要な資質・能力を育成する観点から〔共通事項〕が深く関わり, 生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え実感を伴いながら理解することができるような学習活動。

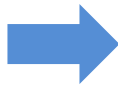
美術科における学習評価のポイント

1 美術科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
造形への関心・意欲・態度
発想や構想の能力
創造的な技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

(1) 「知識」の評価（〔共通事項〕アの指導）

表現や鑑賞の場面において、学んだ知識を生かして、形や色彩、材料、光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようになるなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況の評価することが重要です。

(2) 「技能」の評価（従来の「創造的な技能」）

材料や用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質能力を評価する。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能を読み取ることが重要です。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 表現において、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価する。制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが重要です。
- 鑑賞において自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価するものである。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりする姿を評価する。

- 表現において、机間指導等の際に試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、より良い表現を目指して構想や技能を、工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが重要です。
- 鑑賞において、作品などを鑑賞し、造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさなどを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度を高めることが重要です。

5 指導に配当する授業時数

- 第2学年及び第3学年の各学年においては（1）のA及びイそれぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができるとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにすること。
- 「B鑑賞」の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保すること。